

2021年3月特別会議 議案に対する討論

2021年3月31日

柏木 敬友子

私は日本共産党大津市会議員団を代表して、
議案第72号 令和2年度大津市一般会計補正予算（第12号）
議案第73号 令和3年度大津市一般会計補正予算（第1号）
に対する反対討論を行います。

議案第72号、議案第73号は関連するため、一括して討論を行います。

現在、滋賀県の新型コロナウイルス新規感染者数は下げ止まっていますが、全国では緊急事態宣言解除後、拡大が続き、いつ「第4波」が起こるかしかないという状況です。さらに県内でも確認されているイギリス型変異ウイルスは、従来のウイルスより感染力が70%程度高く、重症化も同程度の高さであるとされています。このような中、医療従事者のワクチンの先行接種が始まり、今回、補正予算には、16歳以上の市民のワクチン接種に要する経費が計上されています。

4月12日からの本格実施に向けて、準備に奔走いただいておりますが、何よりも安全・安心にワクチン接種ができるよう、接種会場運営訓練を振り返り、教訓を踏まえて実施されるよう求めます。そのためにも人員体制の強化も求めます。

質疑では、実施するつもりはないというお答えでしたが、市民が安全・安心に接種を受けられるよう、エッセンシャルワーカーの事前事後のPCR検査を行うべきと考えます。

現在、市に確保されているワクチンは2,700人分であり、先行接種を予定されている85歳以上の高齢者1万7,400名には到底届かない状況です。ワクチンの供給見通しを早く明らかし、円滑にワクチン接種が進むように国に強く求めるべきです。

ワクチン接種を進めることは重要なことですが、厚労省の審議会は、基本的な感染予防対策は継続して行う必要があるという旨を意見されています。ワクチン頼みでなく、検査の抜本的拡充など基本的な感染対策の徹底を同時並行で実施することを求めて、本議案に賛成いたします。